

わかる・できる授業の実践を通して、主体的に学ぶ生徒の育成（第二年次）

— 一人一人の学びを見取って適切に支援し、学習課題の解決につなげるために—

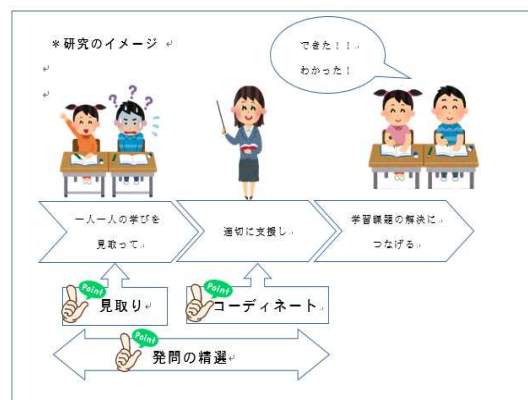
伊達市立桃陵中学校 研修主任 渡邊 正志

## 1 研究の趣旨

本校では、学習意欲の向上と生徒が主体的に学習課題を解決することを目指して本主題を設定し、平成30年度までの3年間の研究成果として、「生徒が興味・関心を示すような課題設定」と「調べる・考える・話し合う時間をしっかりと確保した指導過程」「自分の考えを发表或し、相互に意見交換したりする場の充実」が授業において重要であることが分かった。このことを踏まえ、「日々の授業において生徒が『わかる』『できる』と感じれば、学習意欲がわき、次の授業を楽しみに思うようになり、自ら主体的に学ぶであろう」という仮説を立て、研究主題を設定した。研究を進めるに当たっては「ふくしまの授業スタンダード」を活用し、わかる・できる授業の実践を通して、主体的に学ぶ生徒の育成を目指し、研究実践を行っている。

## 2 研究の概要

- (1) 思考を促し、見取り，生かす教師の働きかけの充実
  - 考える視点や方法，手掛かりを一人一人にもたせるとともに，思考を促す発問を行う。
  - 適切に子供の学習状況等を見取り，本時における次の授業展開に生かす。
- (2) 思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上
  - 思考の共有と吟味を通して，子供が新たな考えをつくりだせるように手立てを講じる。
  - 学び合いの目的を踏まえて，子供の意見や考えを調整したり，まとめたりして進める。



## 3 成果と今後の課題

- (1) 研究の成果
  - 教師が「見取り」を意識することで、全体の発表順を組み立てることができたり、個々の学習の進行状況に応じた支援をしたりすることができた。
  - 座席表や見取りマップを活用して机間指導をすることで、教師が適切に生徒の考えを見取ることができた。
  - ワークシートを工夫したり発表用ボードを使用したりすることで、生徒の思考が可視化され、それを見取りやすくなった。
  - 思考ツールやヒントカードを準備することで、学び合いを可視化し、活性化することにつながった。
  - 思いや考えを共有したり、比較したりする場を設定し、教師の意図的な問いかけをすることで、それぞれのよさに気づき、互いに「○○でいいんだよね」や「これでいいのかな」などと話し合い、磨き合うような姿が見られるようになった。
  - 目的を明確にした話し合いを意図的に設定したり、教師の働きかけを極力少なくしたりすることで、主体的に課題について考える生徒が増えてきた。また、その結果、学習リーダーも育ってきた。
- (2) 今後の課題
  - 個人解決や集団解決のための時間をとりすぎてしまい、全体共有や振り返りの時間を確保できないことがある。学習活動や内容の精選を意識し、振り返りの時間を確保する必要がある。
  - 新たな学びを促すためにも、「授業→家庭学習→授業」というサイクルを構築していく必要がある。ICT機器の活用や家庭学習スタンダードを踏まえた取り組みについて考える必要がある。